



### 臨場感のある壮絶な戦い 「第72期名人戦 第3局」指される

〈将棋盤の上の壮絶な戦い〉

5月8日・9日に湯元荘東洋館で、第72期将棋名人戦七番勝負の第3局、森内俊之（もりうちとしゆき）名人と挑戦者の羽生善治（はぶよしはる）三冠の対局が行われました。両棋士は前日に武雄市内の見学と、武雄センチュリーホテルでの前夜祭に参加され、対局に臨みました。また、2日間の両棋士による迫力ある対局の様子は、東洋館と市図書館で中継され、プロ棋士による解説会も行われました。



〈武雄に浸透する将棋文化〉

将棋ファンだけに留まらず、多くの市民の方も臨場感のある本物の将棋文化に触れられ、楽しんだご様子。佐賀県では4回目、武雄では2回目の開催となった名人戦。子供からお年寄りまで幅広く楽しめる将棋、今回の対局の興奮を再び味わえるその時を楽しみに、改めて多くの方に将棋に親しんで頂きたいですね。今回の対局は挑戦者の羽生三冠が制し、4期ぶりの名人タイトル獲得まであと1勝に迫りました。



### 鉄道デザインの巨匠、現る

JR九州の車両と云えば、この方の存在無くして語ることはできません。子供から大人まで、世代を越えて親しまれるデザイナーの巨匠、水戸岡鋭治さんが5月17日（土）に武雄市図書館・歴史資料館を訪れました。図書館で行われた樋渡市長とのトークセッションは大盛り上がり。「人（利用者・市民）の為に尽くす」の精神は二人を繋ぐ大きな共通点となりました。水戸岡さんはご自身の仕事観を「自分にできることは限られている。でも一生懸命にやっていると、助けよう、手伝おうとい

う仲間が集まってくる。そして大きな賞賛を生む作品として利用者によって育まれるんです。」と語られました。また、武雄市図書館についても「これこそが心地良い空間」と大絶賛。市長も、「市民目線のまちづくりによって、たくさんの子供たちや起業家に大きな夢を描かせてあげたい。」と述べ、水戸岡さんも強くその重要性に共感されていました。対談で飛び交う言葉の重みを、会場にお越しの100名のお客さんも共有することができました。参加された皆さんは、たくさんのお土産話を持って笑顔で会場を後にされました。



水戸岡 鋭治（みとおか えいじ）  
岡山市吉備津出身。  
ドンデザイン研究所代表取締役。  
インダストリアルデザイナー・イラストレーター。  
九州旅客鉄道デザイン顧問として、これまで「つばめ」「かもめ」をはじめJR九州の数々の電車デザインを手掛けてきた。他にも、両備グループデザイン顧問・おかやま夢づくり顧問・公益財団法人石橋財団理事など幅広く活動されている。

